

胸部ステントグラフト(TEVAR)

2008年に胸部大動脈用ステントグラフトが保険承認され、当院でも胸部大動脈瘤に対するステントグラフト内挿術(TEVAR)が実施可能となりました。

胸部大動脈瘤のなかでも、胸部下行大動脈にできた大動脈瘤はTEVARの最も良い適用で、従来の治療法である人工血管置換術と比べるとかなり安全かつ低侵襲に治療が行なえます。



胸部下行大動脈瘤(術前)



TEVAR施行後

当院では、頸動脈が枝分かれする弓部大動脈の大動脈瘤に対しても積極的にステントグラフト治療を応用しています。弓部大動脈に対するステントグラフト治療は胸部下行大動脈瘤くらべて、より複雑で難度の高い手技です。手技として、頸動脈へのバイパス術を行った後にステントグラフトを挿入する Debranch 法/ Hybrid 法、弓部大動脈と同時に頸動脈などの分枝動脈にもステントグラフトを挿入する Chimney 法などがあります。



弓部大動脈瘤(術前)



Debranch TEVAR施行後

胸部ステントグラフト(TEVAR)



Hybrid TEVAR



Chimney 法を用いた TEVAR

全ての動脈瘤がステントグラフト治療の適応となるわけではありませんが、当院ではこれら全ての方法を駆使して、患者様の状態や動脈瘤の性状に合わせた最もよいステントグラフト治療を選択しています。